



平成 20 年 5 月 28 日

各 位

横浜市西区みなとみらい 2 丁目 2 番 1 号
株式会社 システムプロ
代表取締役社長 逸 見 愛 親
(コード番号：2317 東証第一部)
問い合わせ先 取締役管理本部長 国 分 靖 哲
電話番号 045 (640) 1401 (代)
U R L <http://www.systempro.co.jp>

中間および通期業績予想の修正ならびに特別損失発生に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 19 年 12 月 6 日に公表いたしました平成 20 年 10 月期中間期（平成 19 年 11 月 1 日～平成 20 年 4 月 30 日）および平成 20 年 10 月期通期（平成 19 年 11 月 1 日～平成 20 年 10 月 31 日）の連結・個別それぞれの業績予想について、下記のとおり修正するとともに特別損失の発生についてお知らせいたします。

なお、平成 20 年 10 月期中間決算短信は、6 月 5 日木曜日に開示する予定です。

記

1. 平成 20 年 10 月期中間業績予想の修正

(1) 連結（平成 19 年 11 月 1 日～平成 20 年 4 月 30 日）

(単位：百万円、%)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	中 間 純 利 益
前 回 発 表 予 想 (A) (平成 19 年 12 月 6 日発表)	4,776	764	785	445
今 回 修 正 予 想 (B)	4,462	789	967	546
増 減 額 (B-A)	△314	25	182	101
増 減 率 (%)	△6.6	3.2	23.1	22.7
(ご参考) 前期実績 (平成 19 年 10 月中間期)	3,665	696	691	364

(2) 個別（平成 19 年 11 月 1 日～平成 20 年 4 月 30 日）

(単位：百万円、%)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	中 間 純 利 益
前 回 発 表 予 想 (A) (平成 19 年 12 月 6 日発表)	4,611	880	868	548
今 回 修 正 予 想 (B)	4,309	853	844	410
増 減 額 (B-A)	△302	△27	△24	△138
増 減 率 (%)	△6.5	△3.1	△2.7	△25.1
(ご参考) 前期実績 (平成 19 年 10 月中間期)	3,196	613	608	324

※上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

2. 平成20年10月期通期業績予想の修正

(1) 連結（平成19年11月1日～平成20年10月31日）

（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A) (平成19年12月6日発表)	11,080	2,048	2,101	1,204
今回修正予想 (B)	9,633	1,707	2,004	1,173
増減額 (B-A)	△1,447	△341	△97	△31
増減率 (％)	△13.1	△16.6	△4.6	△2.6
(ご参考) 前期実績 (平成19年10月期通期)	7,930	1,595	1,555	849

(2) 個別（平成19年11月1日～平成20年10月31日）

（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A) (平成19年12月6日発表)	10,600	2,168	2,204	1,337
今回修正予想 (B)	9,325	1,773	1,831	1,012
増減額 (B-A)	△1,275	△395	△373	△325
増減率 (％)	△12.0	△18.2	△16.9	△24.3
(ご参考) 前期実績 (平成19年10月期通期)	6,958	1,370	1,405	808

3. 特別損失の発生およびその内容

当社連結子会社である株式会社トラスティッド・ポイントの当中間期における実績を踏まえ、今後の当該子会社の事業計画達成可能性を検討した結果、当社として当該子会社への投融资に対する回収可能性が低くなったと判断いたしました。これにより、個別業績において関係会社株式評価損 193 百万円、当該子会社に対する債権等にかかる貸倒引当金繰入額 120 百万円を特別損失に計上いたします。

なお、連結業績における影響額につきましては、当該子会社ののれん等 63 百万円を減損損失として特別損失に計上いたします。

4. 修正の理由

(1) 連結

子会社の株式会社 ProVision におきましては、技術者の採用が順調に行えたこと、および業務ニーズに直結した教育・研修を徹底したことで生産性が向上しました。また、持分法適用関連会社の株式会社ジークレスト、北洋情報システム株式会社、カテナ株式会社の3社においても、ともに計画を上回る利益を実現する見込みであります。個別の業績要因を受け、中間業績予想につきましては売上高が前回予想を下回る見込みとなりました。

また、通期業績予想につきましても売上高が前回予想を下回る見込みであり、これに伴い営業利益、経常利益、当期純利益ともに前回予想を下回る見込みとなりました。

これらの結果、中間業績予想につきましては、売上高は 4,462 百万円（前回予想比 6.6％減、前年同期比 21.7％増）、営業利益は 789 百万円（同 3.2％増、同 13.3％増）、経常利益は 967 百万円（同 23.1％増、同 39.9％増）、中間純利益は 546 百万円（同 22.7％増、同 49.9％増）となる見込みであります。

※上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

通期業績予想につきましても個別要因の影響を受け、前回予想を下回ることが予想されており、売上高は9,633百万円(前回予想比13.1%減、前年同期比21.5%増)、営業利益は1,707百万円(同16.6%減、同7.0%増)、経常利益は2,004百万円(同4.6%減、同28.9%増)、当期純利益は1,173百万円(同2.6%減、同38.1%増)となる見込みであります。

(2) 個別

ネットワーク・ソリューション事業におきまして、今後のより一層の利益率向上を図るべくエンドユーザーからの一括請負業務の比率を増やしてまいりましたが、一部の一括請負業務におきまして開発の遅延が発生し、収束のため技術者を予定より多く投入して収束を図りました。この影響によって売上高の減少および次案件の受注の遅延が発生したことを大きな要因として業績予想を修正するものであります。

また、モバイル・ネットワーク事業において、当社が主力としている移動体通信業界は、ナンバーポータビリティ制度導入前後の携帯電話端末開発競争が一段落し、次世代移動体通信端末の開発に向けての踊り場にさしかかったことから新機種開発数が予想を下回ったことにより、携帯電話端末の評価案件業務が計画を下回ることが予想されます。

これらの結果、中間業績予想につきまして、売上高は4,309百万円(前回予想比6.5%減、前年同期比34.8%増)、営業利益は853百万円(同3.1%減、同39.3%増)、経常利益は844百万円(同2.7%減、同38.8%増)となる見込みであります。また、中間純利益は上記特別損失の発生により、410百万円(同25.1%減、同26.6%増)となる見込みであります。

通期業績予想につきましては、売上高は9,325百万円(前回予想比12.0%減、前年同期比34.0%増)、営業利益は1,773百万円(同18.2%減、同29.4%増)、経常利益は1,831百万円(同16.9%減、同30.3%増)となる見込みであります。また、当期純利益は上記特別損失の発生により、1,012百万円(同24.3%減、同25.2%増)となる見込みであります。

5. その他

今回の業績予想の修正による中間配当および期末配当の変更はありません。

以上